

令和4年2月6日(日)

令和3年度 古津八幡山弥生の丘展示館 企画展3 関連講演会

## 新津丘陵の縄文遺跡

～縄文土器の形と文様の変化～

新潟市文化財センター  
田中 耕作

## 考古学をやさしくしよう

佐原 眞 昭和7(1932)年～平成14(2002)年  
(奈良国立文化財研究所・国立歴史民俗博物館)

- ・考古学をやさしくしよう ・考古学を楽しくしよう
- ・学問の成果をいかにやさしく一般市民に還元するか  
(学術用語・略語・記号 ⇒ 研究の場で)

- ・日常用語におきかえる
- ・聞いて分かる用語を使う
- ・解説を加える
- ・ただし、学術用語を完全に排除した説明や解説は不可能

今回の展示……学術用語の言い換え、日常語。対象は中学生以上  
展示解説パンフレット……一般の方と専門の双方に配慮。ただ字が小さい  
本日の講演……深く知りたい一般の方、若手の研究者向け

## 難解な考古学の専門用語

- **遺跡**……集落・生産（窯・製鉄）・埋葬・祭祀・洞窟・  
(性格) 低湿地・水中・都市・軍事
- **遺構**……**竪穴住居**・掘立柱建物・炉・**土坑**（貯蔵・墓・  
掘る・盛る 落とし穴）・埋設土器・貝塚・古墳・堀・溝・  
環状列石・盛土遺構・環濠・土塁・井戸・窯
- **遺物**……道具と、人骨・食糧残さ（骨・貝・種実）  
**材質**⇒ 土器・石器・骨角器・木器・金属器  
**用途**⇒ 鉢・甕・鍋・注口土器・斧・弓・石鏃・  
石錐・釣針・土偶・装身具・銭・丸木舟
- 学術用語……**型式**・様式・類型・**編年**・**層位**・系列・遺棄

## 今日の話のながれ

- 1 縄文時代とは
  - ・土器は時代のモノサシ
  - ・土器型式と編年
  - ・土器の新旧と同時
- 2 新津丘陵の縄文遺跡
  - ・土器の分布圏
  - ・土器の形と部分の呼び方
- 3 縄文前期
  - ・土器づくり
- 4 縄文中期
  - ・縄文土器の文様
  - ・王冠型土器と折衷土器
  - ・深鉢の使用痕
- 5 縄文後期
  - ・土器底面の敷物圧痕
- 6 縄文晩期
  - ・深鉢の形と使い分け
  - ・土器実測図の仕組み

# 縄文時代とは

- ・ **土器の生成**.....約16500～15500年前
- ・ **縄文時代**.....約13000年間続く  
狩猟・採集(ドングリが主食)・漁労
- ・ **時期区分**.....草創期・早期・前期・中期・後期・晩期  
細分(初頭・前葉・中葉・後葉・末葉) ⇒ 言い換え
- ・ 草創期 ..... 最終氷河期、旧石器的な道具箱、遊動生活
- ・ **定住生活**.....早期になると温暖化、縄文文化の諸様相  
大集落、貝塚、ドングリ貯蔵、墓域、多器種土器  
弓矢や多様な石器、大型の石皿、マツリの道具

# 土器は時代のモノサシ

縄文土器が初めて作られたのは約15500年前(16500年説もある)  
現在(西暦2020年)まで約13000年 縄文時代が84%

## AMS放射性炭素年代測定法

C14が5730±40年で半減

1950年から何年前を示す yrBP

校正年代の表記 CalBP



# 土器型式と編年

- 土器型式

形や文様などが共通する土器のまとめり  
 一定の広がりと一定の時間幅（地方差・年代差）  
 「このような形や文様、整形方法で作らなければならない。」  
 という地域での約束事

- 土器編年

土器を新旧で順序よく並べたモノサシ（相対年代）  
 放射性炭素年代測定(C14年代)の併用 ⇒ ○○年前の土器  
 一緒に出た石器や住居跡の時期を知る  
 土器は大量に作られ、生活に密着

## 縄文土器の形と部分の呼び方

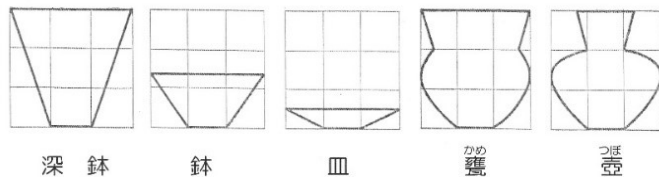
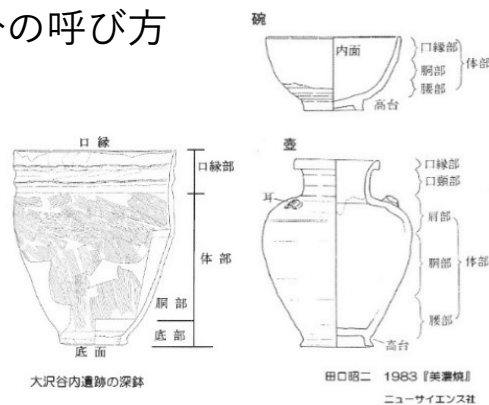
- 陶磁器の呼び方から

口縁部・体部(胴部)・底部

- 口縁部

直立・内傾・内湾・外傾・外反  
 口唇 ⇒ 口端の変容（山内1930）

- 縄文土器の基本形



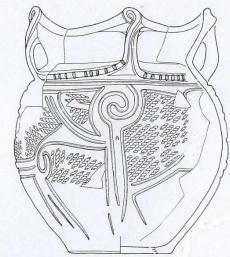
甲野 勇 1976『縄文土器のはなし』学生社

# 土器の見方

(要素に分解して比較)

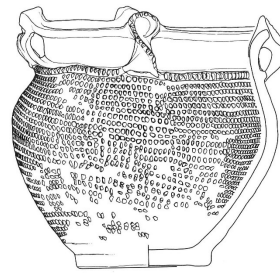
表徴:

その型式を特徴づける鍵の要素

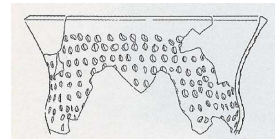


菅生田遺跡 (宮城県)

菅生田	特徴	権現山
○	頸部のくびれた形	×
○	口頸部無紋帯	×
○	頸部のキザミ隆帯	×
○	4単位の橋状把手	×
×	体部の全面刺突文	○
三十稻場式である	判断	三十稻場式とは言えない



上ノ原遺跡 (西蒲区)  
三十稻場式標準



権現山遺跡 (愛知県)

# 土器の新旧と同時

## (1) 層位学的方法

地層累重の法則・・・水平堆積は下層が古く、上層が新しい (地質学)  
地層同定の法則・・・遠く離れても同じ層 (火山灰)

## (2) 型式学的方法

土器の変化をつかむ

本来のものがだんだん崩れてくる。役割を失う。発展していく (?)

折衷土器・・・別々の型式の文様が、ひとつの土器に使われる。同時期

## (3) 一括遺物

一括遺物：同時に埋めた(埋まった)ひとまとまりの遺物。共伴出土  
共伴出土は「出土の同時」であり、「製作の同時」ではない

共存の同時性：たまたま⇒暗示⇒蓋然性⇒確実性 (佐原は5回共存で)

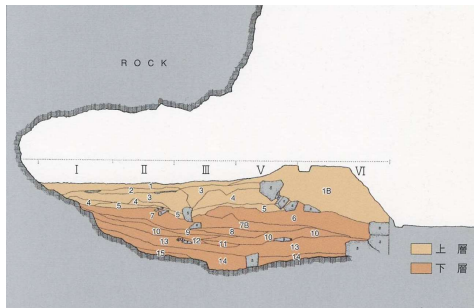
土器の出土状態 ⇒遺構内共伴と遺構の切り合い 同時か、新旧か

## (1) 層位学的方法

- ・層位の基本 ⇒ 水平堆積の層は、上層が新しく、下層が古い。
- ・見えない(認識できない)土層の乱れ、ピット(小穴)

「土層は生では使わない」……混入を前提 (山内清男)

(田中耕作1992『新潟考古学談話会会報』10号)

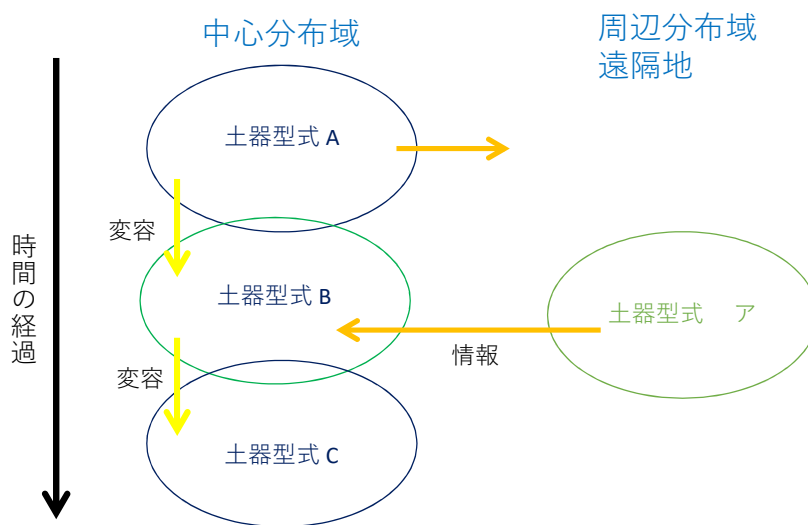


阿賀町 室谷洞窟 (小熊博史2007)



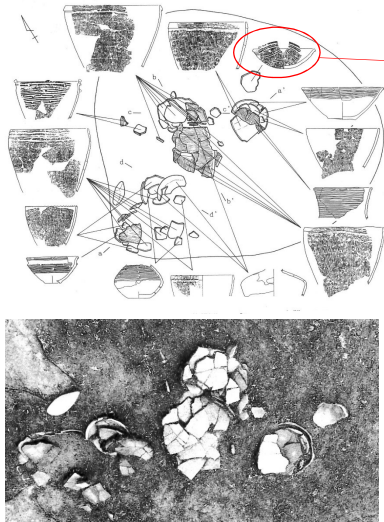
東北大学1995『中沢目貝塚Ⅱ』宮城県

## (2) 土器型式 (時間と空間)





# 土坑の共伴出土 (古い土器も一緒に埋置)



新発田市教委1992『館の内遺跡D地点の調査』

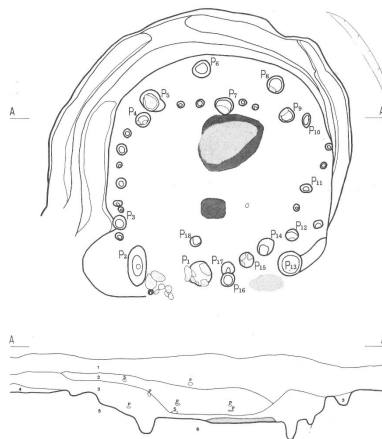
## 縄文晩期後半の編年

相	遺跡	図録
縄文晩期後半	上野原式	1: 野ノ山 2・3: 上野原
	鳥居式	4-8: 鳥居
縄文晩期	鳥居式	9-11・13: 野ノ山/PD, 10・12: 村岡
	鳥居式	14-19: 鳥居
縄文晩期前半	鳥居式	20-23: 村岡, 24・25・26: 鳥居, 27: 野ノ山
	鳥居式	

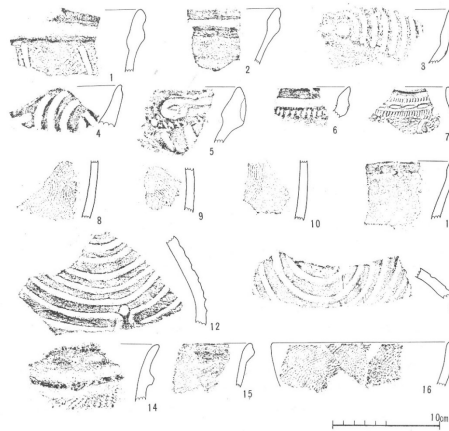
新潟県埋文調査事業団2002『川辺の縄文集落』

# 竪穴住居の土器破片出土

住居の窪みを埋めた土に含まれていたと解釈  
⇒一括遺物ではない



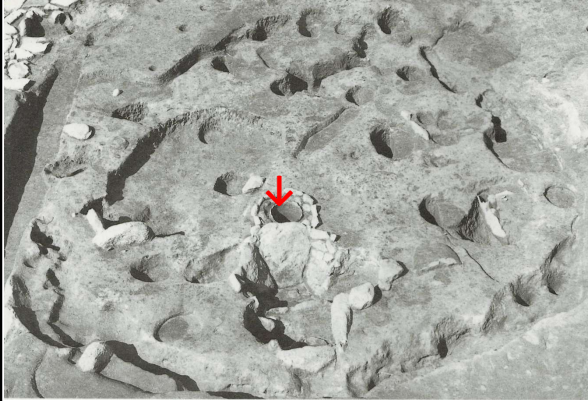
平遺跡1号住居 (後期初め頃)



新津市教委1983



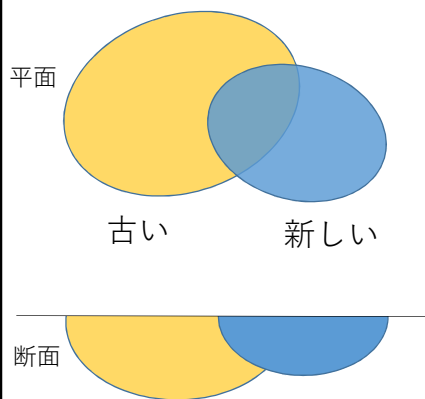
## 住居の炉の共伴出土例（入れ子の土器）



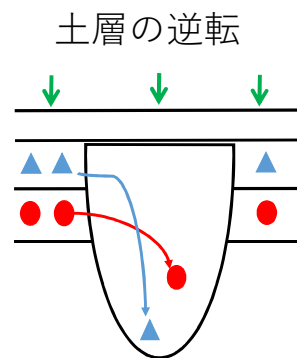
縄文中期終わり頃の竪穴住居（西方前遺跡）  
 炉の埋設土器が入れ子（上下を切断した土器）  
 ⇒ 住居が使われていた時期を示す  
 （福島県三春町教委1992『西方前遺跡Ⅲ』）



## 遺構の新旧関係



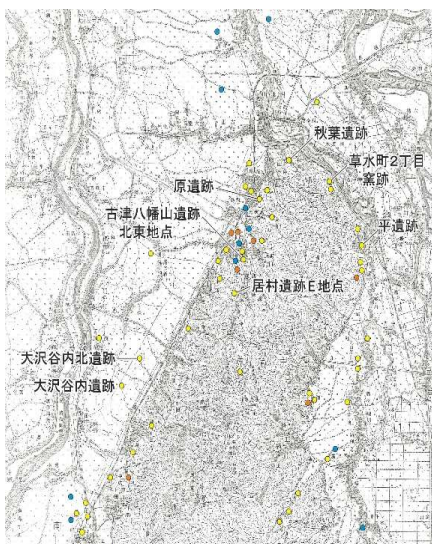
遺構の切り合い  
 後から掘った穴が、埋まっていた  
 古い穴を壊している



- ・埋置・埋納（目的・意識）
- ・廃棄・土に混在（偶然・無意識）
- ・置き忘れ・災害（遺棄）

## 新津丘陵の縄文遺跡

- ・ 新津丘陵の北部  
標高95～110mの里山
- ・ 東に阿賀野川 西に信濃川
- ・ 丘陵上の遺跡 (標高15～22m)  
丘陵先端の平坦地  
平地との高低差10～15m  
縄文前～晩期
- ・ 平地の遺跡  
縄文晩期 (大沢谷内遺跡)



地形図は、大日本帝国陸地測量部 昭和9年(1934)刊行

あきは

## 秋葉遺跡 (縄文時代 中期初め～後期初め頃)

- ・ 丘陵先端の平坦面～緩い斜面
- ・ 標高 20～22m
- ・ 平地との比高差 15m
- ・ 調査：1998 (平成10)年から13次
- ・ 住宅建築・駐車場造成など小規模
- ・ 竪穴住居・石囲炉 (後期)  
掘立柱建物・土坑



たいら

## 平遺跡 (縄文時代 中期初め頃・後期前半)

- 新津丘陵東側緩斜面
- 標高 15~21m
- 平地との比高差 10m
- 調査：1981 (昭和56)年  
2020 (令和2)年
- 竪穴住居 (中期初め・後期初め頃)  
石錘・土錘 (おもり) 多い



穴の中に置かれた土器

おおさわやち

## 大沢谷内遺跡 (縄文時代 晩期後半)

- 新津丘陵から西へ約1 km
- 地表の標高 4m
- 調査面は地表から1m下
- 調査：2005 (平成17)年から  
2016 (平成28)年 25次
- 天然アスファルトの精製
- 一時滞在のムラ (生活に必要な石器の種類や量が少ない、  
粗製深鉢が大多数で他の器種少、マツリの道具なし)
- 物々交換の港? 周辺は湿地帯。現信濃川は西へ1.5km





## 土器の分布圏

- 中心分布域と周辺分布域（土器分布圏）
- 遠隔地（飛び火的出土）
- 交通路（交易・交換）⇒大きな河川  
信濃川・阿賀野川・荒川・日本海
- 搬入土器の認識 ⇒土器の移動・情報の移入
- 地域間のつながり・交流（人・情報）
- ヒスイ・黒曜石・アスファルト・干し貝（交易品）

## 縄文前期の遺跡



居村E遺跡 (前期初め頃：布目式)



新発田市二太子沢A遺跡 (前期終わり頃：真脇式)



草水2丁目窯跡  
(前期終わりごろ)



## 縄文土器の作り方

- ① 素地作り・混和材を混ぜて練る。
- ② 形作り　・粘土ヒモを積んで形を作る。内外面を整える。
- ③ 文様づけ・立体的な装飾は太い粘土ヒモ。
- ④ 仕上げ　・生乾きの時に、ツルツルの石や貝殻で磨く。
- ⑤ 焼　成　・日陰で乾かし、500～700度くらいで野焼き。



No. 245 遺跡 51号住居跡 土器作りの痕跡



No. 245 遺跡 51号住居跡の未焼成土器

<参考文献>  
可児通宏2005『縄文土器  
の技法』同成社

多摩NT - No.245遺跡 51号住居内の土器づくり

(東京江戸東京博物館2021『東京に生きた縄文人』)

# 粘土採掘坑

竈原遺跡（後期中頃と晩期中頃）

三十稲場遺跡（後期初め頃）

多摩NT - No248遺跡（中期中頃）



竈原遺跡 粘土採掘坑  
(会津坂下町教委2021)



三十稲場遺跡 粘土採掘坑  
(長岡市教委 2010)



No. 248 遺跡の大規模粘土採掘跡



粘土採掘跡のアップ

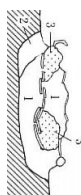
多摩NT - No248遺跡 粘土採掘坑

(東京江戸東京博物館2021『東京に生きた縄文人』)

# 保存状態の粘土塊

- ・ 生粘土・焼粘土
- ・ 混和材の有無
- ・ 出土位置

- ・ 陶芸の「ねかせ」  
はあるのか？



会津坂下町鬼渡りA遺跡  
(土器内保存)

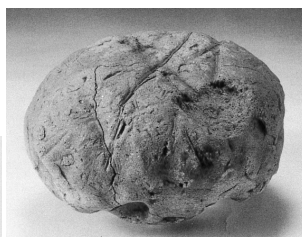


江添遺跡(生・不明)  
24.2×20.2×10.7cm

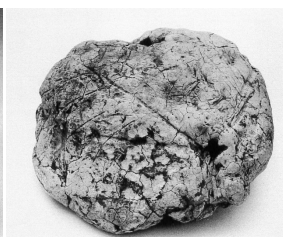
- ・ 粘土の試し焼き？  
↓ (by 可見2005)



村尻遺跡 (焼・混)



村尻遺跡(焼・混) 1.61kg  
14.0×13.3×9.8cm



城之腰遺跡(半生焼・無)  
1.33kg 15.0×14.0×6.3cm

## 縄文中期の遺跡



東北系



北陸系

中期初め頃(平遺跡)



竹管文と連続爪形文

## 縄文土器の文様

「縄文」という名称

E.S.モース「大森貝塚の発掘調査報告書(英文)」1879年  
cord mark (縄目の文様) ⇒ 白井光太郎が「縄紋」と訳す

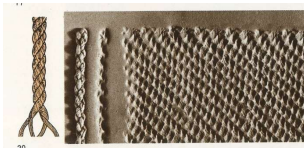
山内清男が撚紐(ヨビモ)の回転圧痕と突き止める 1931年

縄目以外の文様(貝殻 押型文 棒状工具など)



縄文 木目状撚糸文 竹管文 連続爪形文 条線文 網目状撚糸文

# 「縄文」 = 撚紐(ヨリヒモ)の回転文様

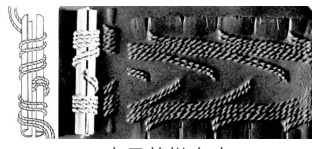


単節斜縄文 RL



結節 (結び目)の回転

<基本> 単節斜縄文  
2回撚る  
右撚り・左撚り  
転がす→45° 傾く



木目状撚糸文



網目状撚糸文

撚糸文  
(軸に撚紐を巻く)



羽状縄文



縄の側面圧痕

佐原 真1981「特論 縄文  
施文法入門」『縄文土器  
大成3』

# 王冠型土器と折衷土器

馬高式 ← 火炎土器 ← 火焰型土器  
(素紋)土器 ← 王冠型土器

大木8a式を母体

キャリパー状の器形・鶏頭冠突起  
横s字状文・剣先状文



火焰土器のX線CT  
(新潟県立歴史博物館2004「火炎土器の研究」)

構成⇒火炎1割・大木8式ほか3割・素紋6割



王冠型類似土器  
(秋葉遺跡)



大木8a式土器  
(新発田市上車野E遺跡)



火焰型土器 重文  
(馬高遺跡)



王冠型土器 重文  
(馬高遺跡)

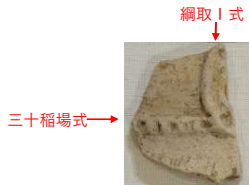
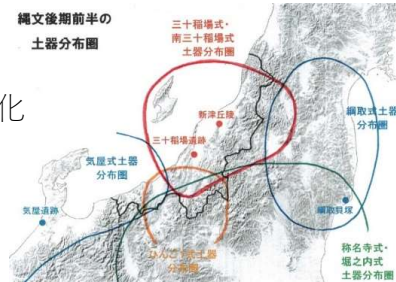
解説リーフレット「馬高式土器とその文化」長岡市馬高縄文館2019





# 縄文後期の土器

- ・ 中期終わりから後期初め ⇒ 寒冷化  
食料調達・居住環境の変化



三十稲場式と網取I式の折衷 (平遺跡)



西蒲区 上ノ原遺跡  
三十稲場式(古)



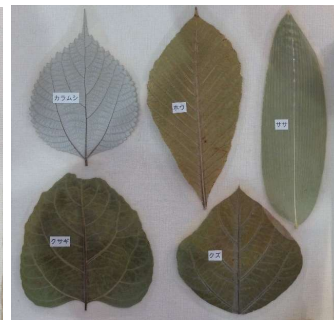
五泉市 馬下稲場遺跡  
三十稲場式(新)

# 土器底面の敷物圧痕



後期前半の底面圧痕 (平遺跡)

- 中期初め頃：スタレ状が多い
- 中期中頃から：木葉・ササが多い (多雪地帯)
- 中期終わり頃の阿賀北：敷物圧痕をナデ消す
- 後期から：網代が多くなる

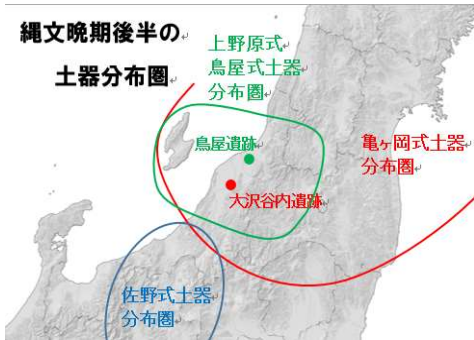


もじり編み(カラム)    網代編み(マタビ)

# 縄文晩期の土器

土器型式の編年対比

	新潟県	東北地方	長野県
前葉		大洞B式	
		大洞BC式	佐野 I a式
中葉	朝日式	大洞C1式	佐野 I b式
	朝日式	大洞C2式(古・中)	佐野 II 式(古・中)
	上野原式	大洞C2式(新)	佐野 II 式(新)
後葉	鳥屋 1 式	大洞A 1 式(古)	女鳥羽川式
	鳥屋 2 a式	大洞A 1 式(新)	氷 1 式(古)
	鳥屋 2 b式	大洞A 2・A'式	氷 1 式(中・新)



大洞 C 2 式(浅鉢)  
(大沢谷内北遺跡 左 3 点)



上野原式(浅鉢)



上野原式(広口壺)



鳥屋 2 式(鉢)  
(大沢谷内遺跡)

# 深鉢の形と使い分け

後期中頃 ⇒ 形や作り方が大きく変わる

小さな底部・大きく開く体部・薄い壁  
炎の当たる面積が増え、熱効率が上がる

精製土器と粗製土器

(後期中頃：加曾利 B 式から)

意匠文系土器と素文系土器

(後期初め：堀之内 I 式以前)

(阿部芳郎1998『駿台史学』102)

素文(ソフン) ⇒ 素紋系と使いたい

炭化物の分析 (炭素と窒素の同位体比)

(阿部芳郎ほか2021『日本考古学』53)

炭素(多),窒素(多) ⇒ 動物質  
炭素(多),窒素(少) ⇒ 植物質  
炭素(少),窒素(少) ⇒ 無機質

大型の粗製深鉢 ⇒ アク抜き  
中型の深鉢 ⇒ 日常の煮炊き

東日本の晩期

大型の粗製深鉢が 7 ~ 8 割



平遺跡 (後期初め頃)

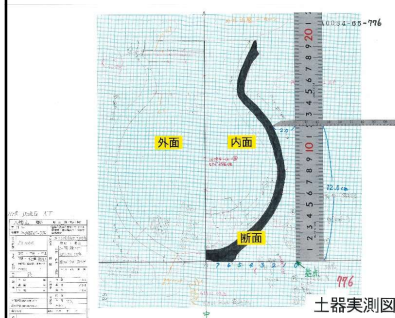


大沢谷内遺跡 (晩期中頃)

# 土器実測図の仕組みと描き方

## 実測図の目的

- ・ 作った技術や使った状態などの情報を記録・保存
- ・ 実物を直接見られない人に伝えること



石川日出志2001「土器の実測  
とは何か」考古学技術研究会